

# 盧溝橋事件（1937年7月7日）80年と安倍政治、太平洋戦争の泥沼になぜ陥ったか

1937年7月7日、北京郊外の盧溝橋（ろこうきょう）で夜間演習中の日本軍が実弾射撃音を聞いたことをきっかけに、近くの中国軍と戦闘に、日中全面戦争の発端となった。

41年12月8日、真珠湾攻撃により、「鬼畜米英」で太平洋戦争に突入。45年8月、ポツダム宣言受諾し無条件降伏。46年11月、日本国憲法公布。51年9月、連合国とサンフシスコ講和条約、アメリカと日米安保条約を調印。56年12月、国連加盟。

2012年12月、第2次安倍内閣発足。13年

3月、麻生副総理ら靖国神社参拝。中国、韓国が「日本は歴史を直視し戦時中の侵略行為による犠牲者の感情を重んじるべきだ」と強く反発。

これに対して、参拝2日後の国会で安倍首相「侵略という定義は学界的にも国際的にも定まっていない」と答弁。14年7月、集団的自衛権行使容認を閣議決定。15年9月、安保法制を強行採決。ほとんどの憲法学者が、「安保法は違憲」と表明。

安倍首相、17年秋の臨時国会で「憲法9条改憲」の発議を表明。



（上図は「日本の勢力範囲の変遷」 『朝日新聞』 2016年8月29日）